

吉野復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録  
(平成30年4月7日(土)於) 14:35-14:42 名取市立閑上小中学校)

1. 発言要旨

本日は、岩沼市と、ここ名取市を訪問いたしました。最初に、玉浦西地区を訪問いたしました。ここは、集落単位での移転や、住民主体のまちづくり、そして、青年海外協力隊のOB・OGの方々のきめ細やかな支援によって、コミュニティが維持をされておりました。生活再建後の新たなコミュニティ形成が課題となる中、先進事例として大変参考になったわけであります。

続いて、「にしき食品」に伺いました。復興庁も支援させていただきました、ハラル対応のレトルトカレーが完成し、販売が開始されます。海外への販路拡大を目指す意欲的な取組であると感じました。

復興庁としても、引き続き企業の商品開発や、販路拡大、これを支援してまいりたいと思っております。

最後に、ここ閑上小中学校の開校式に参加をさせていただきました。閑上に伺う度に復興の進捗を感じ、嬉しく思っております。

新しい学校で学ぶ子供たちが、1年生から9年生まで一緒に力を合わせて成長し、被災地の未来を明るくしてくれることを期待しております。特に、県の教育長である高橋さんの御挨拶、ここ閑上小学校、中学校の卒業生だということで、本当に感動する御挨拶を頂き、それを見た子供たちは新しい小中学校の歴史をつくってくれるもの、こういうふうに思った次第であります。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 8年目を迎えて、このような学校が完成しました。大臣として8年経ってからこういう学校が完成するということは、どう思われますか。

(答) 御挨拶の中でも、市長さんとか、議長さんが本当に8年目になってやっと開校したということについて、皆様方にお詫びを申し上げておりました。本当に長い年月掛かったわけでありまして、その言葉は私たち復興庁としても、御苦勞をなされた方々に、市長さん、議長さんと同じくお詫びを申し上げねばならない、こんな気持ちであるところです。

そして、学校の内覧を最初にさせていただきました。4階建てで、小中学校でエレベーターのある学校は、私も全国いろいろ見ておりますけど、初めてでございます。

特に、4階は正に防災の避難施設、いわゆる太陽光パネル等もございまして、備蓄倉庫もあって、そこが一般的には家庭科の料理をすところなんですけど、万が一のときには食事の台所になるわけでございますので、そして、ランチ教室、いざといった場合には1,000名を収容できる、そういう避難所にもなり得るということで、本当に防災機能を備えたすばらしい学校だなと、こんな思いをしたところです。

もう一つは、今年の新1年生はおなかの中にいたんです、あの日に。私の孫も昨日、福島県で入学式をやってきたんですけど、あの日はおなかの中にいたんです。ですから、彼らのためにも、（旧閑上小・中学校の）黒板にいっぱい頑張れとか、全国から励ましの方々がみえられて、黒板にこう書いてある、そういうものも展示されていたり、当時の写真も展示されていたり、新1年生にとっては本当にこういうことが7年前、起きたんだなということが分かる、そういう資料室もあったということ、それは風化をさせないという意味でもすばらしい取組をやっているな、こんな感じをしているところです。

（問）この学校に通う児童、生徒さんたちに、大臣から一言お願いします。

（答）すばらしい先輩、閑上小学校、中学校という先輩がおりますので、今度の学校は小中学校、1年生から9年生までいる学校でございまして、先輩たちの意志を、伝統を引き継ぎながら、新しい校風をつくってくれることを希望し、そして、この閑上の町の復興の担い手になっていただくことを心から期待しているところです。

ありがとうございます。

（以 上）